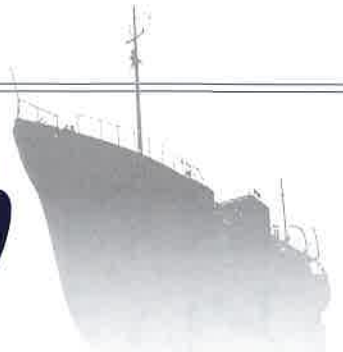


都立 第五福竜丸展示館ニュース

2014.01.01  
No.379

(1・2月号)

# 福竜丸だより



発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL <http://d5f.org>

## 第五福竜丸 航海中

イラストレーション 黒田征太郎さん ピカドン・プロジェクトからフクリュウマルそしてフクシマへ、戦争と核なき世界へと絵筆で発信しつづける第五福竜丸の航海の同伴者だ。今秋、展示館にてアート展開催。



## 記念コンサート

第五福竜丸被ばく60年  
つどいましょう第五福竜丸の  
記憶のために

三宅榛名さんに聞く

編集部 3月1日の記念のつどいでの演奏をお引き受けくださった三宅榛名さんにお話をうかがいました。

現代音楽をはじめた  
きっかけ

中学生のころから20世紀の音楽に興味をもっていましたが、父の仕事の関係でアメリカのカリフォルニアに住んでいたころ、更に現代音楽に触れる機会が多くあり、といったことからかしらね。もちろん音やリズムの感じがとっても面白いジャンルだと思っ

## 音楽でできること

私は、作曲と並行して、ピアニスト活動をしてきたのですが、この20年くらいは即興演奏家としての仕事も多く、内外の即興音楽の演奏家と共演を続けています。

かつて70年代末から80年代

の半ばにかけて、「自分が音楽でできることを全てやってみよう」と思い、様々な試みを展開するコンサートシリーズを渋谷の「ジャンジャン」で持ちました。自作の演奏・再演をはじめとして、ロック・ジャズ、日本の古典音楽など、他のジャンルの人との共演や、古典から現代までの演奏、即興演奏、レクチャーコンサートの日もあつたりして。

音楽の多面性を全体的にとらえたいという考えかた、かしらね。このシリーズでは毎回たくさんのお客さんが来てくださって、ステージ上にもお客さんが座って、ということも度々ありました。時代そのものが、社会的にも文化的にもすごく熱気のある時期でしたね。

## 第五福竜丸のこと

もっとももっと多くの人に、この船の持つ意味や歴史を知ってもらいたい、と思っ

## 音楽がもつ広がり

フェリス女学院大学の音楽

学部で10年ほど、教師をしていました。フェリスは総合大学ですが、珍しいことに音楽学部があります。一般学部生にも直接、間接的に音楽に触れる機会があることで、彼女たちの人生に新しい風景が開けるのではないかと思います。

地球化学者だった父、三宅泰雄は、福竜丸の展示館の創設に深くかかわっていました。父はとても音楽が好きで、文化を含めた広がりの中で自然科学をとらえていた人だったので、福竜丸の保存の実現にはそういった考えも生かされたのでは、と思います。

編注 三宅泰雄さんは、地球化学者、気象研究所の研究者として水爆実験による放射能雨の測定の全国的なネットワークづくりや環境問題を手掛けられた。第五福竜丸保存の運動にも中心的に関わり、第五福竜丸平和協会の会長をつとめた。

## プロフィール

作曲家・ピアニスト。ジュリアード音楽院作曲科卒。「弦楽オーケストラの詩曲」でベリンジャミン作曲賞。リンカーンセンターのホールのこけら落しに作品委嘱されるなどニューヨークで作曲家のキャリアをはじめ。ピアニストとしてはクラシックから現代に至る演奏、また先鋭的な即興演奏で活動し、ヨーロッパ、アジア、アメリカなど多くの音楽祭に出演している。2000年から2011年までフェリス女学院大学で教える。CDに作品集〈空気の音楽〉、著書に評論エッセイ〈音楽未来通信〉(晶文社)などがある。

編集部 3月1日に演奏される「第五福竜丸の記憶のために」の即興曲が、第五福竜丸の航海をどのように描くのか期待しながら、多くの方々にお越しいただきたいと思っ

## 記念講演

# 宇宙的視点から考える —ヒトと地球と空と核—

池内 了さん



1950年代の冷戦の盛り、狂ったように核兵器開発競争が行なわれた。ビキニ事件を引き起こしたブラボー実験は15メガトン、旧ソ連では最大で50メガトンもの水爆を爆発させた。その背景には、敵の攻撃に対して核兵器を用いた反撃を行い壊滅的な破壊をもたらすという核抑止論があった。しかしながら、冷戦の終結とともに核兵器国への核軍縮の圧力は強く

## M2MからN2Nへ —過去と未来を重ね合わせて—

ビキニ事件が起こって60年経った。この60年の間に、核開発と原子力利用において世界はどのように変わり、日本はどのように変化したのか、世界と日本の動きをリアルに見つめ、過去と未来を重ね合わせて時代の変化を反芻してみたいと思う。

なり、現在核抑止論は少しずつ弱体化しつつある。核テロリズムや核拡散の矛盾が絶えずあり、現実の脅威解決に核兵器は無用で有害でさえあるという認識が強まっているのだ。そのこともあって、アメリカに実戦配備されている核弾頭は2000にまで削減され(他に予備2000、解体待ち3500)、これが500のレベルにまで下がれば一気に核廃絶の展望が開かれる可能性がある。核兵器保有国へいっそう圧力を加え続けることによって、核戦争の恐怖に彩られた過去を払拭できる展望が抱けそうなのだ。

この情勢に対して、1990年代頃から「M2M」と言われるようになった。「メガトンからメガキロワット」、つまり「百万トン級の核兵器から百万kwの原発へ」というわけだ。直接的にはウランの有効利用という意味なのだが、原発ルネサンスと叫ばれたように温室効果ガスの削減のために原発を推進する動

きが強くなってきた。しかし、3・11の福島原発事故の勃発によってその動きはいったん鎮静化した。そしてドイツやイタリアなどにおいては脱原発の方針が決定されるようになった。これを「N2N」と呼ぼう。「核(Nuclear) エネルギークラ自然(Natural) エネルギークラ」の略である(あるいは「A2R・原子力(Atomic) エネルギークラ再生可能(Renewable) エネルギークラ」と呼ぼう)。石油が枯渇に向かい、地球温暖化が一層強まり、放射性廃棄物に溢れ、数多くの原発の廃炉を迎える、この数十年先を考えればN2N(あるいはA2R)は当然の方向なのである。とはいえ、開発途上国は手っ取り早いエネルギー源として原発を選ぼうとし、日本はその売込みを図るという恥ずかしい状況も生まれている。世界の安全で平和な未来を構想し、その実現に向けて力を注ぎたいと思う。

## プロフィール

天文学者・総合研究大学院大学教授・世界平和アピール七人委員会委員。専門は宇宙

論・宇宙物理学、科学と社会。京大助手、北大助教授、東大助教授、国立天文台・大阪大学・名古屋大学・早稲田大学の教授を経て、2006年より現職。科学と社会の関わりについて教育・評論活動に従事し、「新しい博物学」を提唱している。著書に、『疑似科学入門』、『時間とは何か』、『禁断の科学』、『科学者心得帳』、『娘と話す原発ってなに?』ほか多数。

### 3.1 ビキニ・記念のつどい60

3月1日(土) 午後2時-4時30分

■記念コンサート 三宅榛名(みやけはるな)

■記念講演 池内 了(いけうちさとる)

会場 日本青年館 中ホール

入場料 2000円(学生1000円・中学生以下無料)

予約・お問い合わせは第五福竜丸平和協会まで

## のこすべきこと

澤地久枝

船が危険に遭遇したとき、無線でSOSが打たれる。一九五四年三月、日本のマグロ漁船は祖国をはるかに離れて、ビキニ環礁近くにいた。そこで、アメリカの水爆実験に出会う。SOSは打たれなかった。

もし無電を打ったら米国によって存在を消されると判断した無線長の本能はあたっていた。

久保山愛吉さんの乗る第五

福竜丸は、被曝した船である。久保山さんは日本へ辛うじて帰り、しかし発病、亡くなった。

核兵器がいかに生命を奪うか、広島・長崎の経験では足りないというように、水爆実験の放射能は久保山さんの命を奪い、現地住民たちからふるさとを奪った。この事実を私たちはしっかりと受けとめてゆきたい。

当時マーシャル水域には、五六〇隻の船がいた。被曝した人たちの六〇年のつらい物語をのこす責任が私たちにある。

## 古きをしのび

## 歴史を風化させず

岩佐幹二

第五福竜丸ビキニ被災六〇年にあたり故事を語ります。当時わたしは金沢大学法学部の助手でした。被災翌年の一九五五年には全国的に原水爆禁止運動・世界大会開催の機運が大きく盛り上がり、金沢でもその年の春先に旧四高（当時は金大理学部）の行動でアメリカの水爆実験への抗議と原水爆禁止を求める集会が行われました。被爆者である私は、当然参加しました。その席上ビキニへ抗議船派遣

の計画に能登の若い漁民の方が乗船するという報告があり、結局は実現しませんでした。だが、大いに触発されたことを覚えています。

当時社会系の助手は社会的な活動におおむらには参加しにくいしきたりがありました。私は、その年夏休みで広島に帰郷した際、第一回の世界大会に参加登録できぬまま個人参加の形で平和公園の暑い日差しの広場で拡声器から流れる声を聞いた記憶があります。今日に続く被爆者運動への第一歩になりました。平和協会の役員の末席をけがしている私にも第五福竜丸事件とのかかわりはあったのです。（被爆者・協会評議員）

## 怖い

丸本和子

荒井なみ子の肝いりで旗あげした朗読劇団「八月座」、岩垂弘の『核』に立ち向かった人々』で第五福竜丸と出会う。マグロ漁船がビキニで水爆の灰をかぶったことを知らなかったわけではないが、展示館に行き、その被害の実態を勉強する。放射能による被害の恐ろし

さは並のことではない。もっと怖いのは、たくさんの人に苦しみを与えたお国の方々も、苦しみを与えられた人々のお国の方々も、苦しんでいる人などいないかのような結末をつけてしまったこと。

最初に原爆の実験をした記念の七月一六日、私たち、第五福竜丸の下で「第五福竜丸航海中」を朗読。この事を決して忘れることなく、今の、そしてこれからの諸問題を考える際の手がかりにしたい。

(八月座元座員)

## 第五福竜丸と私の出会い

中村 博

私が教員組合の委員をしていた頃、「原水爆禁止」の運動を推し進めていても、それは「原水協」の運動方針だ、いやその言い方は「核禁会議」の方針だと、ケンケンガクガク。平和運動の難しさを感じていた。でも事件当時の最新メディアだったテレビからの「ガイガー」というガイガーカウンターの音、マグロが食べなくなるという言葉ほど鮮明なものではなかった。その記

憶が大きく運動を統一し、前進させた。

この事件の中心でもあった第五福竜丸が、江東区の夢の島に廃棄され、「このまま捨てられてよいのか」から始まった保存運動に、組合は協力した。その運動をすすめた功労者に知人の堀田尊生さんがいた。堀田さんが他界され、奥様から「偲ぶ会」の相談を受けた。それがわたしと第五福竜丸を強く結びつけた「9・23平和を語る第五福竜丸の集い」の出発点である。この集いの中で、大石又七さんからマグロ塚建設の話を持ち上がり、協力した。

私をここまで育ててくださった先輩の一人、羽仁説子さんの「花には太陽を、子どもには平和を」の言葉とともに、私はますます前進していきたい。

(日本子どもを守る会 前会長) 9・23平和を語る第五福竜丸の会

## 平和の守護

岸田正博

一九五四年甲午から暦は一還しましたが、日本は三度のヒバ(5めんにつづく)

ビキニ事件60年  
第五福竜丸へのメッセージ

各界のみなさんからメッセージを寄せていただきました。  
今号・次号でご紹介します。

ク国から、二〇一一年三月一日以来、放射能の加害国であり続けています。

「原子力安全神話」が瓦解したと思いきや、核への盲目的信仰が流布されています。「核信仰」では、核兵器と核発電という不二の「本尊」への盲信が特徴です。この「本尊」の正体を明らかにしようとする者には秘密漏洩の罪が課せられようとしています。さらに、「本尊」の効験が発揮される場である戦争を国家の基本体にしてしまうとまで目論まれています。

第五福龍丸の「龍」は、仏教ではお釈迦様のさとりを守

明けましておめでとうございます。ビキニ水爆被災・第五福竜丸被ばくから六〇年、三月一日がまもなくやってまいります。

二〇一五年の核不拡散条約(NPT)再検討会議を控え、本年は、まず二月にメキシコで「核兵器の人的影響に関する第二回国際会議」、続いて四月に広島で「軍縮・不拡散イニシアティブ外相会合」が開かれます。核兵器の人的影響の議論をさらに発展させようとする

護する役目を果たしています。邪悪を克服し、核兵器の無い、原発の無い、戦争の無い現世への道を守護する龍。それが第五福龍丸ではないでしょうか。

(隅田山多聞寺住職)

### ビキニ事件六〇年

大石芳野

六〇年前の「死の灰」は広く海や空、大地を汚染し、多くの人達を地獄に突き落とししました。どれほどの命が奪われ、健康を侵されてきたことでしょうか。展示保存されている貴重な木造船の第五福龍丸にしても、乗組員の一六人もが無念のうち

### 公益財団法人第五福竜丸 平和協会代表理事

川崎昭一郎

動きと、非人道性の動きが核兵器禁止条約へと前進することを警戒する「核の傘」国(日本、オーストラリアなど)とのせめぎ合いが考えられます。六〇年前の第五福竜丸被ばくのさい放射能に立ち向かった科学者たちを想起しながら、いま福島第一原発事故の放

に旅立たなければなりません。こうした屈辱を抱えながらビキニ事件は間もなく解決されたことになり、国によって真実はおろか事実も隠され「放射能はない」ことにされました。日本だけで千隻もの船がビキニ環礁で漁を行い大勢の乗組員が被曝しましたが、検診も補償もなく、不安と病に苦しむ生涯を強いられたのです。第五福竜丸乗組員だった大石又七さんは癌などの病との闘いの日々ですが「悔しいから」発言し続けています。この「悔しい」思いは今なお続いていることです。そして新しい悔しさが東電福島第

一原発で起こりました。これから長年にわたって悔しさを味わう人が増えていくことだけは食い止めなければなりません。そのためにも、私たちは六〇年前のビキニ事件に隠された真実に耳を傾けなければならぬと思います。

### 自分の声になるまで

崔 善愛 (写真家)

「核兵器」というものは、どこまでも人間をつけ回し、なんどもなんども人間をだまし打ちして、人間の生きる勇気と誇りとを台なしにする悪魔の贈り物であって、こんなものを兵

器だの爆弾だのと『やさしげに』呼んではいけない」と作家・井上ひさしさんは「悪魔の弟子ども」の中に書きのこした。

「悪魔の贈りもの」は一部メルトダウンし、わたしたちはみな被曝者となり、核の恐ろしさを知った。そう、もはや「知らなかった」という言い訳は許されない。

大石又七さんの声をわたしは心で何度もくりかえす。その言葉が自分のからだの一部になり、自分の声になるまで。(ピアニスト)

60年記念出版 新版図録 3月1日発売  
核なき世界へ 第五福竜丸は航海中  
第五福竜丸の被ばくから放射能被害の広がり、マーシャルと世界の核被害、展示館所蔵資料写真収録  
B5判カラー 180頁 予価 2000円+税

ビキニ事件・第五福竜丸  
被ばく60年記念連続市民講座  
いま、水爆の時代を問う  
～核と向き合い明日へ

第一回 4月20日、6月～9月まで全4回開催  
\*核問題、国際政治、被ばくに関する研究者と市民を結ぶ  
\*明治学院大学白金校舎・国際会議場  
資料代 500円(予定)

# “非核芸術”に 内包される現在

粟津ケン

福島、秘密保護法、さらにはオリンピック。これは、他ならぬ市民である私たちが結局はその流れに同調している結果だと思えます。私たちが精神的に自立し、個人として発言し、行動を起せるような民主主義が本来モットーとする社会を今まで築けなかったからです。いや、築こうとしてこなかったからからかもしれません。

今、さらに思考が停止している状態です。反発力が萎えています。というか皆無です。福島原発事故を持ってしても、社会全体が「見て見ぬふり」な状況。強い方に従うことが正しいかの姿勢。これについては、都会も田舎もありません。

身体的に耐えるのは超苦痛でした。デモ自体が管理され、ある特定の組織によるルール満載の仕切りで行われているようです。時代遅れな雰囲気と相まって、若者の参加が少ないことも納得できます。参加者の数も原発事故直後の三年前に比べると激減しているように映ります。

ここまで書くとかかなり否定的な内容ですが、こんな時代にこそ芸術とは何かを考えざるを得ません。政治やアカデミックな美術史などにほとんど興味などありませんでしたが、いつの間にかこれもまたテーマの一つになってしまいました。

「福島」をモチーフに描かれた壺井明「無主物」2012（部分）



す。原爆以来、日本人が「核」というテーマを、どう視覚伝達しようとしてきたのか。デュープな一冊。とはいえ、実は岡村さんとは美術についてではなく、普段はもっぱらアメリカの野球やバスケットボールの話題です。とりわけ一八六〇〜一九四七年まで続いたニグロ・リーグについては盛り上がります。大リーグ

では長い間、白人以外の選手はプレイできませんでした。なので、彼らブラック・ピープルは独自のリーグを組織し、それを運営、経営してきたのです。彼らの野球が、白人のそれとは本質的に異なる、ある特有のGrooveに富んだ至上のノリの良さを持つ極めて優れた代物であったことは想像するに容易です。

で、NBAという場が目指すべきは、実はこのニグロ・リーグであると思っています。彼らのやったことを簡単に言うと、それは、自分のやりたいことを、自分で築いた舞台で実践するということ。逆境をパワーに変換すること。そこには、

当事者ならではの抜群のセンスが表現されています。創造力の塊のような無名なる選手たちが大勢いたことでしょ。美術や音楽といった芸術の価値は、学者や批評家が決めることではありません。自分で見つけ、感じ、自分の生き方や愛情から決定する問題です。非核や反核をテーマにしているからといってその作

品が面白いとは限りません。デモの有り様もまたしかりです。反核、非核といっても、権威に軸足を置いたスタンスからは独自の文脈の優れた表現は野球にせよ美術にせよ音楽にせよデザインにせよ生まれないと思います。

ニグロ・リーグについて、この際もつと勉強しようと思っています。そうです、アートのために。そして、こういう時代だからこそ、それがチャンスと思つて、やりたいことを真つすぐに現場化してゆく以外に方法はありません。この本を読み始めて直感的に感じたことです。

岡村さん、おめでとう。そして、意味深い本、ありがとうございました。

（あわづ けん／NBA主宰）

\* \*

『非核芸術案内―核はどう描かれてきたか』岩波ブックレット。（掲載作家）丸木位里・俊、ベン・シャーン、ヤノベケンジ、岡本太郎、水木しげる、Chin → Pom、壺井明、黒田征太郎、池田龍雄、手塚治虫ほか。A5判64頁、図版カラー。（600円＋税）

連載②

晴れた日に  
雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

旧臘の八日、原爆裁判・下田判決五〇周年記念シンポジウム「原爆投下は、国際法に違反する」が開かれました。

主催は日本反核法律家協会、基調講演、パネルディスカッション、映画上映の三部構成。基調講演は名古屋大学名誉教授の松井芳郎さんが「原爆裁判判決の歴史的意義―国際人道法の発展をふまえて―」と題して行いました。

この問題に最もふさわしい国際法の第一人者（主催者あかさつ）の松井さんの講演は、下田判決の先見性を指摘し、先行する人道法、国際司法裁判所の勧告的意見を経ての核兵器使用の非人道性、国際人

道法の到達点を明解にされ、現時点での核兵器廃絶の筋道を示唆するものでした。国際・国内世論の役割、運動に投げかけられている問題にも論は及びました。広島・長崎の被爆者の呼びかけと運動、第五福竜丸被災・ビキニ事件を契機とする原水爆禁止運動にも言及しました。

一二月八日は、広島・長崎へのアメリカの原爆投下をもたらすに至る日米開戦の日（一九四一年）。この二日前には世論の反対を無視して、特定秘密保護法が強行成立していました。

\*

原爆訴訟は一九五五年四月、広島市の被爆者下田隆一さんらを原告に、岡本尚一弁護士、松井康浩弁護士を代理人として提訴され、一九六三年一二月七日、「アメリカの原爆投下は国際法に違反する」との判決を導きました。賠償請求は棄却されましたが判決は国の補償責任にも言及しました。

原爆訴訟の法理や意義については、松井弁護士の著作『原爆裁判』（一九八七年新日本

出版社）に詳しく述べられています。次の文章は、松井康浩弁護士喜寿記念論集『非核平和の追求』に小田成光弁護士が書かれています。

「敗戦後七年におよぶ米軍の占領下においてタブーとされてきたアメリカの原爆投下の国際法的な違法性と責任とを、裁判の場において厳しく追及し、人道と正義を宣明する一助としたいとする老弁護士岡本の孤独な、しかし決して褪めやらぬ情熱は、自らも肉親をヒロシマの劫火の中においた青年松井を心底からゆさぶり、岡本と一体となってこの困難な訴訟（被爆者を原告とし、国を被告とする国家賠償訴訟）の提起、遂行に当たらしめるにいたるのであった。訴訟提起後程なく岡本が病に倒れた後はその遺志をついで奮闘し、やがて一九六三年（昭和三八年）一二月七日「原爆投下は、無防備都市に對する無差別爆撃であり、且つまた毒ガス以上の残酷な害敵手段であるから、国際法の基本原則に違反する」と宣言した歴史的な「古関判決」を

獲得する勝利に導いたのであった」（論集は日本評論社・一九九九年六月刊）。

岡本尚一弁護士は一九五八年六七歳で病没。遺した歌のひとつ「夜中起きて被害者からの文読めば涙ながれて声立てにけり」被爆者を励まし原爆訴訟いたる岡本さんの気骨と優しさが推し量られます。

松井さんは一九四三年「学徒出陣」で応召、中国山東省で敗戦、復員。郷里三原市で弟さんから広島市の惨状を聞いたのでした。後年「ビキニ事件が訴訟提起のふんざりをつけてくれた」と京橋の事務所であつたことがありました。原爆裁判を引き受けたのは、弁護士登録から四年、三三歳のときでした。

\*

一九五四年から一三年間、松井康浩弁護士は日本弁護士連合会調査室嘱託、七三年から二年間の事務総長をはじめ、青年法律家協会、日本国際法律家協会、日本民主法律家協会、日本反核法律家協会の創立、運営に携わりました。

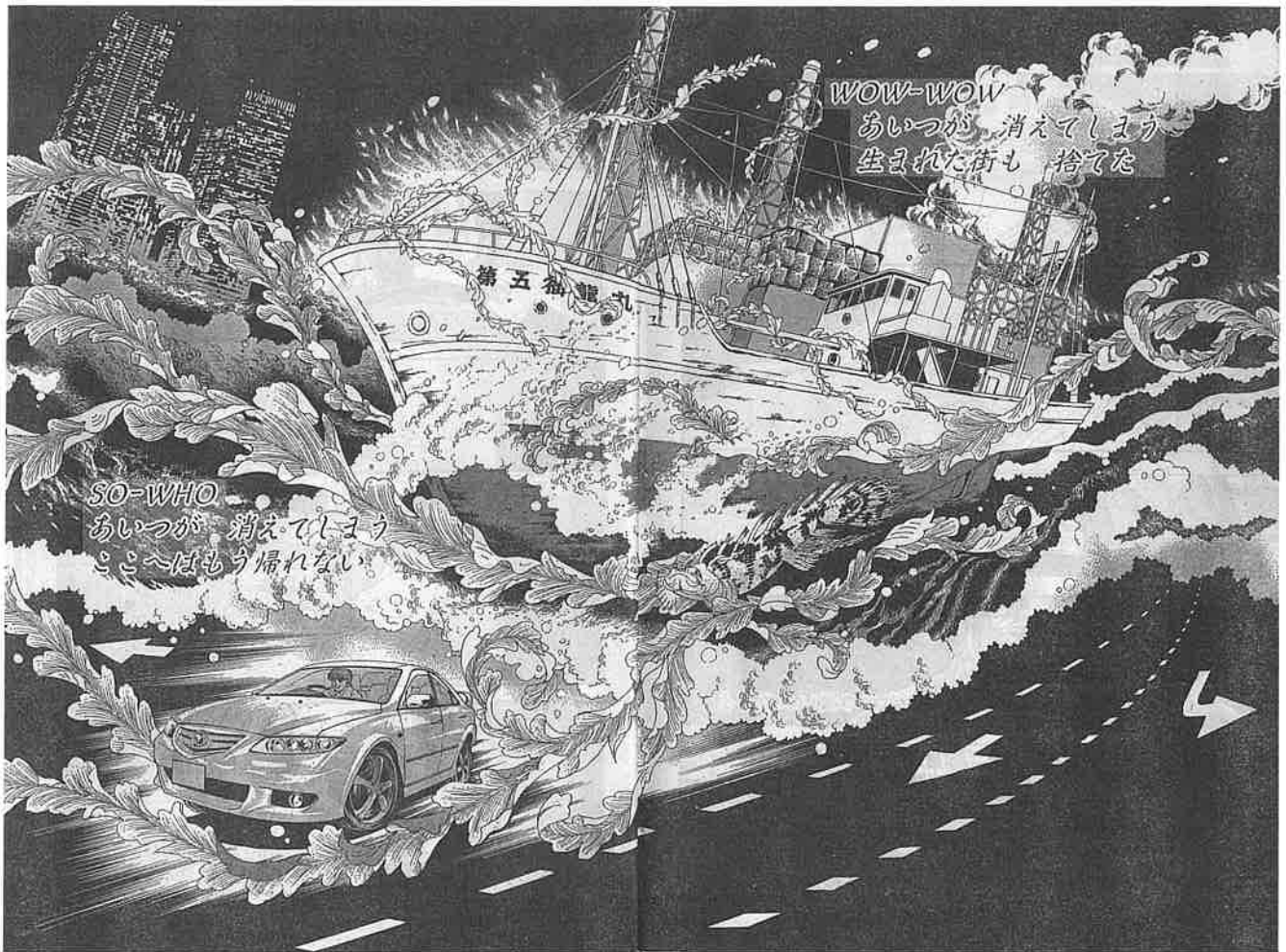
一九九六年七月の国際司法裁判所の「核兵器の使用並び

に威嚇は一般的に国際法に違反する」との勧告的意見を導く国際的な運動をふくめ非核の諸運動、民主的諸運動に中心的にかかわられ、日本原水協の代表理事、原水爆禁止世界大会の議長団としても活動されました。

第五福竜丸保存運動に関しては一九七三年一月、財団法人として第五福竜丸平和協会が設立された時に、松井さんは監事に就任。以後、理事（九一年～〇三年三月）をへて顧問として、平和協会の目的・事業に貢献されました。二〇〇八年六月五日死去。享年八五歳でした。

\*

松井さんは、法律関連の著作・論文を多数書かれています。『戦争と国際法』（三省堂）、『非核平和への道』（新日本医学出版社）、『被爆者援護と核兵器廃絶の理論と運動』（めいけい出版）などの著作ものこされています。（やまむら しげお／第五福竜丸平和協会顧問）



「福島ドライブ」(ビッグコミック 2013年11月10日号) よりご本人の許諾を得て転載しました。

© 萩尾望都 2013

## あの日までとあの日から 萩尾望都

あの日まで、私はこんな風に考えていた。

広島と長崎は核の洗礼を受けた。二度とこんなことは起こってほしくない。

第五福竜丸が核実験に巻き込まれた時も思った。二度とこんなことは起こってほしくない。

しかし、核爆弾が戦争の抑止力なら、実験は仕方が無いのか。

原子力発電のことは、これは原子力の平和利用なのだと考えていた。スリーマイルとチェルノブイリで事故が起こった後も、日本ではそんなことは起こらないと考えていた。だって日本人は真面目で優秀だから。

そして2011年3月11日。東日本大震災が起こった。福島で原子力発電所が爆発した。そのショックで初めて私は気がついた。

私はそれまで、例えて言えば、月が見せる安全で安心な表の顔を見ていた。

やっと、月の裏側のことに気がついた。そこには不安といまだ未解決の多くのものがあった。実に多くのものが。

電気の恩恵を私も受けてきた。電車に乗り冷蔵庫を使いテレビを楽しむ。この便利な生活は捨てがたい。でも原子力発電はもういい。風力でも太陽でもゴミからでも電気は作れる。

冷戦の時代も過ぎた。新しい風が吹き、時代は変わりつつある。変化の時は世界に混乱が起こるだろう。しかも、長く。でももう、もとは戻れない。新しい変化を受け止め、新たな安全な世界を作っていきたいと思う。(はぎおもと/漫画家)